



5年生の音楽の家庭学習 1



音楽の学習では、教科書のお手本の演奏^{えんそう}を活用してすすめます。音を出すときには、家の人に許可^{きょか}をもらい、時間を決めてやりましょう。

お手本の演奏^{えんそう}は、教育芸術社^{けいじゆつ}のサイトから自分の学年の教科書画像をクリックして探し^{さが}ましょう。
<https://textbook.kyogei.co.jp/library/category/小学校/>

♪ 教科書（教育芸術社）「小学生の音楽」5
P. 12～15「こいのぼり」 文部省唱歌^{もんぶしょうしょうか}

1 歌詞^{かし}について理解^{かい}を深めましょう。

1 いらかの波と 雲の波 重なる波の中空 ^{なかぞら} を たちばなかおる 朝風に 高く泳ぐや こいのぼり	屋根のかわらと雲が互いに波のように 重なり合っている。その中ほどを、 たちばなの花の香りがただよってくる朝の風にふかれ、 こいのぼりが高く泳いでいる。
2 開ける広き その口に 船をものまん 様見えて ゆたかにふるう おひれには 物に動ぜぬ すがたあり	大きく開いたその口は、 まるで船までも飲みこんでしまうかのように見える。 大きくふる尾 ^お ひれから、 大抵 ^{たいてい} のことでは驚 ^{おどろ} かない堂々とした姿 ^{すがた} が感じられる。
3 ももせのたきを 登りなば たちまちりゅうに なりぬべき わが身 ^み にによや おのごと 空におどるや こいのぼり	急流 ^{きゅうりゅう} をさかのぼって泳いでいけば、 こいはたちまち竜 ^{りゅう} になるであろう。 「男の子たちよ、そんな私と同じようになってください」 と言っているかのように、こいのぼりが空に泳いでいる。

2 お手本の歌をきき、せんりつの特ちょうを感じ取って「こいのぼり」を歌ってみましょう。

★4年生の学習で使用した曲想・音楽の特ちょうのプリントを参考^{さんこう}にしましょう。



「こいのぼり」の歌は、今から107年前の大正2年に「尋常小学唱歌^{じんじょうしょうが}（五）」に初めてのりました。大切に受けつがれている日本の歌です。

端午^{たんご}の節句^{せきぐ}は中国から日本へ伝えられました。日本では古くから邪気^{じやき}をはらう行事として、しょうぶを軒^{のき}や家の中にかざる風習がありました。

一方、こいのぼりを立てる習わしは、江戸時代から始まったといわれています。武家階級^{ぶけかいきゅう}では男の子の出世や健康を願って、家紋^{かもん}のついた旗指物^{はたしもの}やのぼり、吹き流^{ふきな}しなどの武具^{ぶぐ}を玄關^{げんかん}に並べ立てたといいます。やがて町人階級^{ちやうじんかいきゅう}がこれをまねて武具の代わりに、こいのぼりを立てるようになったということです。（教育芸術社）